

学年	高校3年	教科	国語科	科目	論理国語	単位数	3
教科書名		探究 論理国語 (桐原書店)		副教材名	読解現代文必携 キーワードの卵(尚文出版) リテラ 大学入学共通テスト対策問題集(文英堂) 大学入試 国語頻出問題 1200 四訂版(いっずな書店)		
コース・クラス		N進学 (理系)					

#### I. 目標

- 1 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。
- 2 基礎学力到達度テスト、共通テスト、大学入学試験にて高得点を獲得するため知識と知恵を養う。

#### II. 授業のねらい

- 1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- 2 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
- 4 語句の意味、助詞や接続詞を始めとする国語の文法について理解した上で、読解問題のための基礎を築く。

#### III. 授業の進め方

- 1 内容の確認とまとめ、本文の主張や本文内容に関する自分の考えを言語化する。
- 2 初見問題、基礎学力到達度テスト、共通テスト、大学入学試験対策など演習の時間を適宜とる。
- 3 基礎知識を確認する小テストを取り入れていく。

#### IV. 学習上の留意点

- 1 教科書本文については、書けない漢字・読めない漢字の確認、語句の意味調べ等、読解の基礎知識の部分の予習は必須。問題集の問題については、演習後に復習を行い、分からないことをなくすようにすること。
- 2 内容の整理、論旨の把握も予習として行うこと。
- 3 説明を聞き板書を写すだけの受動的な姿勢ではなく、本文を読み込み、内容を把握したうえで臨むこと。

#### V. 定期試験

- 1 学期 中間試験・評論「オブジェとイメージ」、評論「人間の領域」、初見問題
- 1 学期 期末試験・評論「日本文化私観」、初見問題
- 2 学期 期末試験・評論「ポストモダンと排除社会」、小説「沙魚」、初見問題

#### VI. 評価の方法

- 1 定期試験・授業内容をしっかりと理解し、それを応用することができる。
- 2 小テスト・計画的に自学自習を行い、意欲的に小テストに臨むことができる。
- 3 提出物・積極的に授業に参加し、課題に対して期限を守り、真摯に取り組むことができる。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標	
一学期	4	「オブジェとイメージ」 「人間の領域」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験</li> <li>・ 小テスト</li> <li>・ 提出物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者のものの見方のおもしろさを味わい、評論の読み方を押さえる。</li> <li>・ 論理展開を理解する。</li> <li>・ 筆者の問題意識を自分自身に引きつけ、考えを深める。</li> </ul>	
	5	「日本文化私観」			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論理展開を理解する。</li> <li>・ 筆者の問題意識を自分自身に引きつけ、考えを深める。</li> </ul>
	6	基礎学力到達度テストに向けて 適宜演習実施			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題の傾向をつかみ、解法を理解することで、読解する力を身につける。</li> </ul>
	7				
二学期	9	基礎学対策特別時間割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験</li> <li>・ 小テスト</li> <li>・ 提出物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎学対策問題で演習を行い、最終確認をする。</li> </ul>	
	10	「ポストモダンと排除社会」			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者のものの見方のおもしろさを味わい、評論の読み方を押さえる。</li> <li>・ 論理展開を理解する。</li> <li>・ 筆者の問題意識を自分自身に引きつけ、考えを深める。</li> </ul>
	11	小説「沙魚」			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京大空襲の惨状を伝える資料館設立をめぐる筆者の心の動きをまとめながら、理解する。</li> </ul>
	12				

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。